

SHO-BOND

ひび割れ注入工法

ひび割れの表面に塗布するだけで内部に浸透し、接着する塗布型ひび割れ注入工法

SHO-BOND キャップ CAP工法

CAP method



▶ 工法概要

CAP工法は、コンクリート表面の微細なひび割れ部に注入材を塗布することで、ひび割れの深部まで浸透接着します。特別な注入器具を用いることなく、ひび割れ補修ができます。

▶ 特長

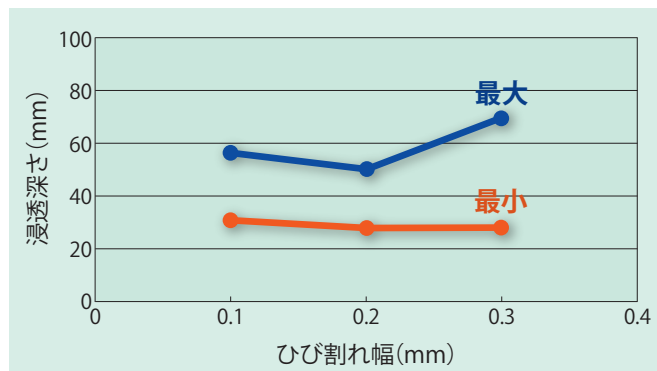
- ① 注入器具を用いなくて、幅0.3mm以下の微細なひび割れを補修できます。
- ② ひび割れ表面に注入材を塗布するだけで、毛細管現象によりひび割れ内部に浸透し、接着一体化します。
- ③ 湿潤したひび割れ面の接着性にも優れています。
- ④ ひび割れ部からの劣化因子を遮断する効果があります。

■ 補修工学® — 建造物の総合メンテナンス企業

ショーボンド建設株式会社

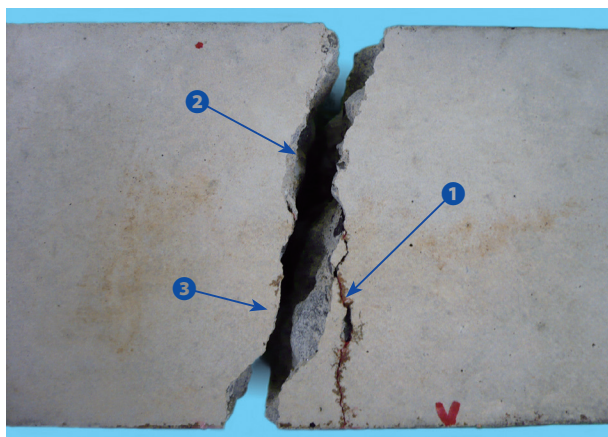
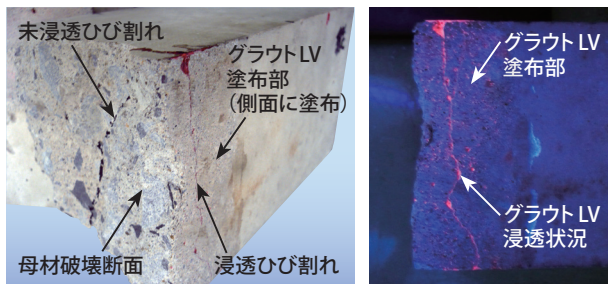
ひび割れ浸透性能

供試体：ひび割れ部塗布5回(上向き浸透)
試験条件：曲げ試験(23℃)



ひび割れ浸透後の状態(曲げ試験後)

供試体：ひび割れ部塗布5回(横向き浸透)
ひび割れ幅/0.2mm
試験条件：曲げ試験(23℃)



■ 曲げ試験・破壊後の供試体側面(下面にグラウトLVを塗布)

- ① 接着効果によりひび割れ部は未破壊(注入材浸透部)
- ② ひび割れ部で破壊(注入材未浸透部)
- ③ ひび割れ部以外で破壊

施工法

- ① ひび割れ部にグラウトLVを、ローラー刷毛等を用いて塗布します。
- ② 塗布したグラウトLVは、ひび割れに吸い込まれます。吸い込みがなくなるまで、繰り返しグラウトLVを数回塗布*します。この時、塗布部はひび割れ部周辺のみとします。

*再塗布の回数は、ひび割れ下部にグラウトLVが溜まった状態(床版下面の場合)になるまでとします。ひび割れ内部の状態によりグラウトLVの吸い込みが異なるため同一回数にはなりません、4～5回を目安としてください(使用量は、200～300g/mが目安です)。



Website
使用材料



Movie
工法紹介

NETIS
掲載期間終了技術
KT-120057-VR

★品質改良のため、製品規格の一部を変更する場合がありますので、ご了承ください。

■製造元

ショーボンドマテリアル株式会社

〒350-0833 埼玉県川越市芳野台 2-8-10 TEL. 049 (225) 5611 (代表)

■販売元

ショーボンド建設株式会社

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 7-8 TEL. 03 (6861) 8101 (代表)

●取扱店